

二宮防災福祉コミュニティ

# 地域おたすけガイド

## 災害時初動対応マニュアル

### 地域おたすけガイドの作成にあたって

- ◎地域おたすけガイドは、地域の皆さんが災害時に活動する際に、活用するものです。
- ◎災害時は周囲の状況をよく確認し、自らの安全を確保し、無理をせず、自分たちのできる範囲で活動を行うことが大前提です。
- ◎防コミで訓練を通して繰り返し検証して、二宮地区に適したガイドにするために、どんどん見直していきましょう。
- ◎毎年一回は総会等で確認する機会を設けましょう。

平成29年2月作成

二宮ふれあいのまちづくり協議会防災部会（神戸市）

（二宮防災福祉コミュニティ）

## ■二宮地区の主要施設・設備等

防コミ運営本部 設置場所	二宮地域福祉センター（中央消防団第四分団詰所）		
地域福祉センター 鍵保管者	-----		
防災資機材庫の場所	二宮 地域福祉センター		
	生田町公園	二宮公園	琴緒公園
避難所	勤労会館	中央小学校	
耐震性防火水槽	生田町公園 ※小型動力ポンプ有	二宮公園 ※小型動力ポンプ有	琴緒公園 ※小型動力ポンプ有
	二宮児童館	生田町2丁目 (ハynes生田前)	
災害時要援護者 名簿保管場所			
防災行政無線 設置箇所	二宮 地域福祉センター		

### (参考) 防コミ運営本部設置基準

- ・震度5弱以上若しくは兵庫県瀬戸内海沿岸に津波警報が発表された場合、地震による災害が発生し、又は災害が拡大する恐れがある場合。
- ・特別警報が出された場合。
- ・上記のほか、大雨等で神戸市に土砂災害警戒情報が発表された場合。

### (参考) 避難勧告の種類

#### 【避難準備・高齢者等避難開始】

災害発生可能性がありますので、避難できるように準備してください。  
避難に時間がかかる方は早めに避難しましょう。

#### 【避難勧告】

災害発生可能性があります。避難を開始してください。

#### 【避難指示（緊急）】

いまにも災害が発生する可能性があります。すぐに避難してください。

※大雨などで避難所への避難が危険なときは、崖から離れた2階以上の部屋に避難しましょう。

# ■災害時における地域と本部、避難所のやりとりのイメージ

## 地域住民

災害発生時は各自で身の安全を確保し、避難及び災害対応を行う。

※9ページ

「各家庭での災害対応」参照



風水害時は早めの避難、もしくは自宅待機！

危険なので  
むやみに外に出ないこと！



一時避難



近所の被害状況や安否不明者、自力での避難が困難な人の情報等を、防コミ運営本部に伝達

人員を派遣

## 二宮地域福祉センター (消防団詰所)

### 防コミ運営本部

統括防災リーダーの指揮により…  
\* 情報の整理・伝達  
\* 活動班の編成

安否不明者の確認や避難支援が必要と判断  
負傷者の救出・救護や初期消火が必要と判断

### 安否確認・避難支援班

\* 安否不明者の確認  
\* 自力での避難が困難な人の避難支援

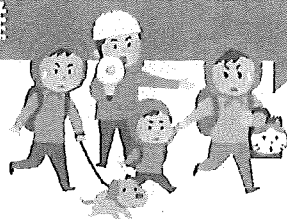


### 救出・救護・消火班

\* 負傷者等への応急手当  
\* 倒壊家屋等からの救出  
\* 初期消火

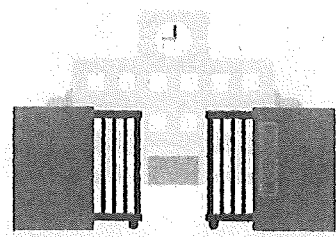


避難 連れ立って避難



### 避難所

\* 勤労会館  
\* 中央小学校

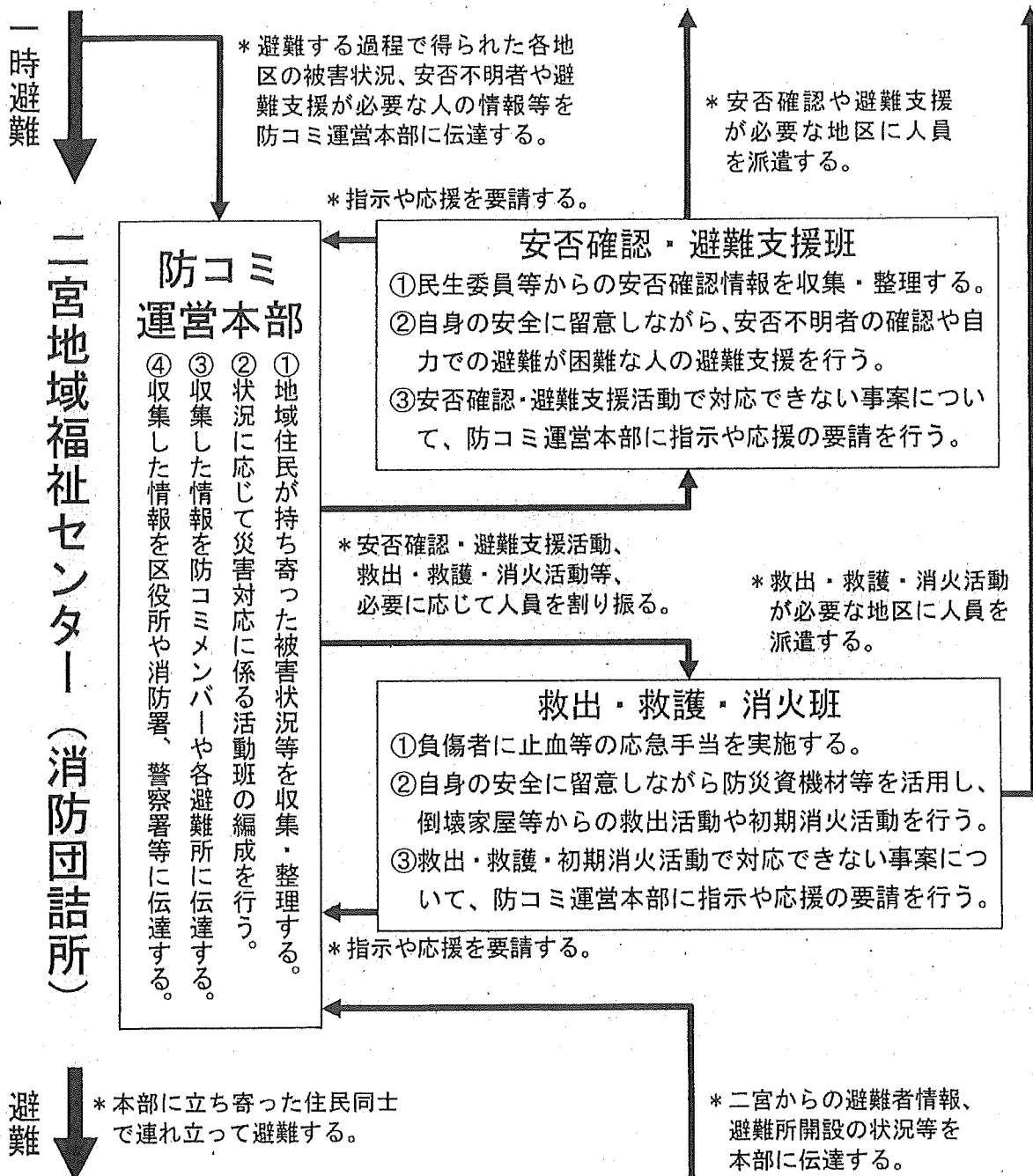


# ■災害時における地域と本部、避難所のやりとりのイメージ

## 地域住民

災害発生時は各自で身の安全を確保し、避難及び災害対応を行う。  
 ※9ページ「各家庭での災害対応」参照

- 【風水害】基本は自宅待機。それが不安な住民は消防団が詰める本部へ避難する。
- 【震災】避難所へ行く前に可能であれば本部に立ち寄り、連れ立って避難する。



### 防コミ運営本部

- ① 地域住民が持ち寄った被害状況等を収集・整理する。
- ② 状況に応じて災害対応に係る活動班の編成を行う。
- ③ 収集した情報を防コミメンバーや各避難所に伝達する。
- ④ 収集した情報を区役所や消防署、警察署等に伝達する。

### 安否確認・避難支援班

- ① 民生委員等からの安否確認情報を収集・整理する。
- ② 自身の安全に留意しながら、安否不明者の確認や自力での避難が困難な人の避難支援を行う。
- ③ 安否確認・避難支援活動で対応できない事案について、防コミ運営本部に指示や応援の要請を行う。

### 救出・救護・消火班

- ① 負傷者に止血等の応急手当を実施する。
- ② 自身の安全に留意しながら防災資機材等を活用し、倒壊家屋等からの救出活動や初期消火活動を行う。
- ③ 救出・救護・初期消火活動で対応できない事案について、防コミ運営本部に指示や応援の要請を行う。

## 各避難所(勤労会館・中央小学校)

運営は他地域の自主防災組織が主体となる  
とされるため、連携のための協議が必要。

※ある程度落ち着いた段階で勤労会館や中央小学校等、避難所に避難した住民と連絡を取り合い、情報や名簿を整理していく。

## ■二宮地域福祉センター 防災資機材庫収納品リスト

鍵保管場所：

確認日： 年 月 日

鍵保管者氏名：

区分	品名	数量	区分	品名	数量	区分	品名	数量
消火 用 資 機 材	小型動力ポンプ		被 服 類	軍手	60	救 出 救 護	ハンマー（大）	9
	消火器			腕章			片手ハンマー	2
	訓練用消火器			ジャンパー			リヤカー	1
	強化液消火器			ヘルメット	10		台車	3
	布バケツ	15		夜光ベスト			ロープ	5
	組立水槽	1		帽子			ゴムボート	
	オイルパン						針金	
	スタンドパイプ		強カライト		ボルトクリッパー		3	
	消火栓キー		サルベージシート		携帯用コンクリート 粉碎機			
	手かぎ	3	投光機					
	50mm ホース		コードリール	1				
	65mm ホース		テント	4				
	ノズル		チェーンソー	1				
	レンチ・モンキーレンチ		ジャッキ	1	給 食	釜	1	
媒介金具類		つるはし	5	鍋		3		
		可搬式ポンプ		燃料		3束		
		バール	7					
		梯子	1					
救 急	担架	1	救 出 救 護	のこぎり	5	そ の 他	メガホン	3
	救急セット	1		掛矢			トランシーバー	6
				おの	1		携帯発電機	1
				スコップ	5		土嚢袋	10
				鍬	1			
				なた	1			
				ペンチ	2			

【特記事項】

## ■生田町公園 防災資機材庫収納品リスト

鍵保管場所：

確認日： 年 月 日

鍵保管者氏名：

区分	品名	数量	区分	品名	数量	区分	品名	数量
消火用資機材	小型動力ポンプ		被服類	軍手		救出救護	ハンマー（大）	
	消火器			腕章			片手ハンマー	
	訓練用消火器			ジャンパー			1輪車	
	強化液消火器			ヘルメット			台車	
	布バケツ	8		夜光ベスト			ロープ	
	組立水槽			帽子			ゴムボート	
	オイルパン						針金	
	スタンドパイプ		救出救護	強カライト	3		ボルトクリッパー	
	消火栓キー			サルベージシート			携帯用コンクリート粉砕機	
	手かぎ			投光機				
	50mm ホース			コードリール				
	65mm ホース			テント				
	ノズル			チェーンソー				
	レンチ・モンキーレンチ			ジャッキ		給食	釜	
媒介金具類		つるはし		1	鍋			
		可搬式ポンプ			燃料			
		バール			ポリタンク		4	
		梯子						
救急	担架			のこぎり	1	その他	メガホン	1
	救急セット			掛矢			トランシーバー	
				おの	1		携帯発電機	
			スコップ	3	土嚢袋			
			鍬		ブルーシート		1	
			なた					
			ベンチ					

【特記事項】

## ■二宮公園 防災資機材庫収納品リスト

鍵保管場所：

確認日： 年 月 日

鍵保管者氏名：

区分	品名	数量	区分	品名	数量	区分	品名	数量
消火 用 資 機 材	小型動力ポンプ	1	被 服 類	軍手		救 出 救 護	ハンマー（大）	
	消火器			腕章			片手ハンマー	
	訓練用消火器			ジャンパー			1輪車	
	強化液消火器			ヘルメット	1		台車	
	布バケツ			夜光ベスト			ロープ	
	組立水槽			帽子			ゴムボート	
	オイルパン		救 出 救 護	強カライト			針金	
	スタンドパイプ			サルベージシート			ボルトクリッパー	
	消火栓キー			投光機			携帯用コンクリート粉砕機	
	手かぎ			コードリール				
	50mm ホース			テント				
	65mm ホース	11		チェーンソー				
	ノズル			ジャッキ			釜	
	レンチ・モンキーレンチ			つるはし			鍋	
媒介金具類		可搬式ポンプ			燃料			
		バール						
		梯子						
		のこぎり						
		掛矢			そ の 他	メガホン		
		おの				トランシーバー		
		スコップ		携帯発電機				
		鍬		土嚢袋				
		なた						
救 急	担架		ペンチ					
	救急セット							

【特記事項】

## ■琴緒公園 防災資機材庫収納品リスト

鍵保管場所：

確認日： 年 月 日

鍵保管者氏名：

区分	品名	数量	区分	品名	数量	区分	品名	数量
消火 用 資 機 材	小型動力ポンプ		被 服 類	軍手		救 出 救 護	ハンマー (大)	
	消火器			腕章			片手ハンマー	
	訓練用消火器			ジャンパー			1輪車	
	強化液消火器			ヘルメット	8		台車	
	布バケツ			夜光ベスト			ロープ	
	組立水槽			帽子			ゴムボート	
	オイルパン						針金	
	スタンドパイプ		救 出 救 護	強力ライト	3		ボルトクリッパー	
	消火栓キー			サルベージシート			携帯用コンクリート ト粉碎機	
	手かぎ			投光機				
	50mm ホース			コードリール				
	65mm ホース			テント				
	ノズル			チェーンソー				
	レンチ・モンキーレンチ			ジャッキ		給 食	釜	
	媒介金具類			つるはし	2		鍋	
				可搬式ポンプ			燃料	
				バール			ポリタンク	5
		梯子						
救 急	担架		救 出 救 護	のこぎり	2	そ の 他	メガホン	1
	救急セット			掛矢			トランシーバー	
				おの	1		携帯発電機	
				スコップ	3		土嚢袋	
				鍬			ブルーシート	1
				なた				
				ペンチ				

【特記事項】






## ■各家庭での災害対応

各家庭で日頃から災害への備えをしておく	確認欄
防災グッズの準備をしておく。 ※非常食の消費期限等に注意しておくこと。	
土砂災害警戒区域の存在やまちの危険箇所、避難所までの経路等、普段から住んでいる地域の状況を把握しておく。	
外出先で被災した場合等を考え、家族の連絡方法や集合場所を決めておく。	
緊急時に気象情報や避難情報をいち早く発信する「ひょうご防災ネット」 ( <a href="http://bosai.net/kobe/">http://bosai.net/kobe/</a> )等の情報サービスに登録しておく。	



### 台風や大雨が接近した場合の災害対応のポイント 基本は自宅待機！

<p>①正確な情報を収集する</p>  <p>テレビ、ラジオ、スマートフォンなどを使って、正しい情報を得る。</p>	<p>②早期の自主避難を心がける</p>  <p>情報をもとに避難のタイミングを決める。防コミ運営本部等から避難の呼びかけがあれば、行政による避難勧告等を待たず、早期の自主避難を心がける。</p>	<p>③自宅待機で安全を確保</p>  <p>夜間や暴風時の避難は危険な場合もある。屋内の安全な場所で待機する。</p>
---	---	---

### 地震発生時の災害対応のポイント 可能であれば本部に立ち寄る！

<p>①まず身の安全を守る</p>  <p>地震の揺れを感じたら、まずしせいを低くし、丈夫なテーブルの下に隠れたり座布団等を使って頭を守り、ある程度揺れがおさまるまで、じっと動かない。</p>	<p>②家族の安全を確認する</p>  <p>家具が倒れてこないような家の中の安全な場所に避難する。</p>	<p>③火・電気を始末する</p>  <p>火器の火を止め、ガスの元栓を締める。電気のブレーカーを落とす。</p>	
<p>④避難経路を確保する</p>  <p>建物がゆがんでドアがあかなくなれば危険。ドアや窓を開けておく。</p>	<p>⑤身支度を整える</p>  <p>靴を履き、あらかじめ用意しておいた防災グッズや工具等を確保する。</p>	<p>⑥屋外の状況を確認する</p>  <p>ガレキによる転倒や落下物等、飛び出さずに確認してから外へ逃げる。</p>	<p>⑦本部に情報を集約する</p> <p>避難する過程で本部（二宮地域福祉センター）に立ち寄り、各地区の被害状況や安否不明者、避難支援が必要な人の情報を伝達する。</p>

## ■非常持ち出し品を備えておきましょう

<b>貴重品</b> <input type="checkbox"/> 現金（公衆電話用に 10 円硬貨も） <input type="checkbox"/> 預貯金通帳 <input type="checkbox"/> カード類 <input type="checkbox"/> 印鑑 <input type="checkbox"/> 免許証 <input type="checkbox"/> 権利証書 <input type="checkbox"/> 健康保険証 <input type="checkbox"/> 貴金属類 <input type="checkbox"/> 予備鍵（自宅・車等） <input type="checkbox"/> 住所録のコピー		<b>情報・照明</b> <input type="checkbox"/> 携帯ラジオ <input type="checkbox"/> 懐中電灯 <input type="checkbox"/> 予備の乾電池 <input type="checkbox"/> 携帯電話（充電器）	 
<b>飲料水・非常食・食器類</b> <input type="checkbox"/> 飲料水 <input type="checkbox"/> 乾パン・クラッカー <input type="checkbox"/> チョコレート・キャンデー <input type="checkbox"/> 缶詰（缶切りも） <input type="checkbox"/> 皿・コップ <input type="checkbox"/> 箸・フォーク・スプーン <b>【乳児用】</b> <input type="checkbox"/> 粉ミルク・哺乳瓶、離乳食	 	<b>生活用品</b> <input type="checkbox"/> 上着類（防寒用） <input type="checkbox"/> 下着類（着替え用） <input type="checkbox"/> タオル・ハンカチ <input type="checkbox"/> ライター・マッチ <input type="checkbox"/> 万能ナイフ類 <input type="checkbox"/> 使い捨てカイロ <b>【目・耳の不自由な方】</b> <input type="checkbox"/> メガネ・コンタクトレンズ <input type="checkbox"/> 補聴器	 
<b>装備</b> <input type="checkbox"/> ヘルメット・防災ずきん <input type="checkbox"/> ホイッスル <input type="checkbox"/> 軍手・ゴム手袋（厚手のもの） <input type="checkbox"/> 運動靴	 	<b>救急・衛生</b> <input type="checkbox"/> 救急用品セット <input type="checkbox"/> はさみ・ピンセット・刺抜き <input type="checkbox"/> 持病薬・常備薬 <input type="checkbox"/> マスク <input type="checkbox"/> トイレットペーパー <input type="checkbox"/> ウェットティッシュ <b>【女性・幼児・お年寄り】</b> <input type="checkbox"/> 生理用品 <input type="checkbox"/> 紙おむつ	 

### 【ポイント】

- \* 荷物は 1 人ひとつとし、運びやすいようリュックサックにコンパクトに！  
（男性 15kg、女性 10kg まで）
- \* 飲料・食品の賞味期限、薬品や電池の使用期限をチェック！保存食は交換時に試食する。
- \* 衣類など、季節で変わる必需品を取り替える為に、年 2 回、春と秋にチェック！
- \* 各家庭で最低でも 3 日分、できれば 7 日分のご用意を！
- \* さらに詳しい非常持ち出し品については

<http://www.city.kobe.lg.jp/safety/prevention/preparation/stockpile/>

## ■事前の準備

防災福祉コミュニティ	確認欄
非常時に連絡が取り合えるよう、防コミの名簿・連絡網等を整理しておく。	
地域福祉センターや防災資機材庫のカギの所有者、保管場所を確認しておく。	
防災資機材庫の収容品等を確認しておく。	
トランシーバーや無線等の連絡用機材、消火器や小型動力ポンプ等、初期消火用機材の使い方の訓練をしておく。	
防コミ運営本部立ち上げのための備品（ホワイトボードや筆記具）、被害状況集計表、避難者名簿等を準備しておく。	
地域の安全確認用地図、避難経路確認図を準備しておく。	
民生委員や婦人会と協力し、災害時要援護者の情報を整理しておく。	
災害時に代表して防コミ運営本部（二宮地域福祉センター）に集まる人を決めておく。	

## ■地震発生時における災害対応

### 【災害発生直後】

防コミ運営本部の立ち上げ	確認欄
あらかじめ決められた役員は二宮地域福祉センター（中央消防団第四分団詰所）に集合し、防コミ運営本部を立ち上げる。	
本部に駆けつけた役員の中から、統括防災リーダーを決定する。	
本部に地域の地図や名簿、被害情報集計表、指示書、メンバーで情報を共有するためのホワイトボードや模造紙等を準備する。	
統括防災リーダーは被害状況等に応じ、集まってきたメンバーを配置して活動班の編成を行い、具体的指示を出す。	
防災資機材等の確保をする。	
情報収集・伝達	確認欄
情報伝達の手段や順番（誰が誰にどのように伝えるのか）を、連絡網や集まってきたメンバーを考慮して決定する。	
防災行政無線、ラジオ、テレビ等から地震情報等を収集する。	
本部に立ち寄った地域住民から得られた各地区の被害状況、安否不明者や避難支援が必要な人の情報等を収集・整理する。	
地震情報や地域内の被害状況、本部の指示内容等を、伝令等により活動班や防コミメンバーに伝達する。 ※地震時、電話は使用できないと考えたほうが良い。	
被害情報、活動情報等を区役所や消防署、警察署等に伝達する。	
安否確認	確認欄
避難者等からの安否確認情報を収集・整理する。	
事前に用意している名簿や、収集した安否確認情報をもとに、民生委員等と協力して不明者の安否確認を行う。	
自力での避難が困難な人の避難支援	確認欄
自力での避難が困難な人（災害時要援護者や障がい者、お年寄り、妊婦、負傷者等）の避難誘導が実施できるよう人員の割り振りを行う。	
自宅の損傷の状況等により、自力での避難が困難な人の避難支援を行う。	
状況により自宅避難となった場合も、その情報を本部に集約する。	

救出・救護活動	確認欄
避難者等からの被害情報等に基づき、救出活動が実施できるよう人員の割り振りを行う。	
二次災害に注意しながら、防災資機材等を活用し、倒壊家屋等からの救出活動を行う。	
負傷者に止血等の応急手当を実施し、必要であれば医療機関等へ搬送する。	
消火活動	確認欄
避難者等からの被害情報等に基づき、消火活動が実施できるよう人員の割り振りを行う。	
消火器や小型動力ポンプ等、あらゆる消火器具等を活用し、初期消火を行う。	

避難所のたちあげ	確認欄
学校関係者や区役所職員と協力して勤労会館や中央小学校に避難所を開設する。	
避難者を受け入れ、避難者名簿を作成・整理する。	
必要に応じて、毛布等の資源を分配・管理する。	
必要に応じて、自宅待機者や避難が困難な人へ物資を運搬する。	

※避難所は二宮地域外（勤労会館は小野柄地域、中央小学校は若菜地域）に存在するため、その運営体制については主体となる他地域の自主防災組織との協議・連携を要する。

【災害発生から数時間～3日(72時間)くらい】

役割分担の見直し	確認欄
防災コミ役員の集結状況や、災害の状況に応じて、役割を見直す。	
避難所等との情報交換	確認欄
防コミ運営本部は勤労会館及び中央小学校に避難した住民と連絡を取り合い、情報や名簿を整理する。	
生活情報の収集・周知	確認欄
防コミ運営本部は避難所や行政等との連絡を密にとって生活情報を収集し、自宅避難者を含め、住民への周知を行う。	
防火・防犯パトロールの実施	確認欄
パトロール班を結成し、二次災害に注意しながら、交代で地域内のパトロールを行う。	

避難所の運営	確認欄
学校関係者、区役所職員や災害ボランティアなどと協力して、避難所の運営にあたる。	
災害時要援護者に配慮する。 ※特に、知的や精神、発達障がい者のうち、集団生活に対応することが困難な人、透析患者やオストメイト（人工肛門など）などの内部障がい者について、特別な配慮が必要であることを他の避難者に理解してもらうことが重要。	
避難者名簿の記載事項に基づき、持病がある人等に適切な処置が施せるよう聞き取り調査を行う。	
福祉避難所を必要とする人については、避難所を巡回する市の保健師につなぐ。	
女性や子育て家庭などに配慮する。	
一緒に連れて避難してきたペットなどに配慮する。	

※避難所は二宮地域外（勤労会館は小野柄地域、中央小学校は若菜地域）に存在するため、その運営体制については主体となる他地域の自主防災組織との協議・連携を要する。

## ■風水害発生時における災害対応

### 【災害発生前】

<b>防コミ役員間での連絡 ⇒ 運営本部開設の判断</b>	確認欄
気象情報、土砂災害警戒情報等を収集し、地域の状況を収集し、名簿や連絡網を用いて電話等で確認する。	
<b>防コミ運営本部の立ち上げ</b>	確認欄
あらかじめ決められた役員は必要があれば二宮地域福祉センター（中央消防団第四分団詰所）に集合し、防コミ運営本部を立ち上げる。	
本部に駆けつけた役員の中から、統括防災リーダーを決定する。	
本部に地域の地図や名簿、被害情報集計表、指示書、メンバーで情報を共有するためのホワイトボードや模造紙等を準備する。	
統括防災リーダーは被害状況等に応じ、集まってきたメンバーを配置して活動班の編成を行い、具体的指示を出す。	
<b>情報収集・伝達</b>	確認欄
情報伝達の手段や順番（誰が誰にどのように伝えるのか）を、連絡網や集まってきたメンバーを考慮し、あらかじめ確認・整理しておく。	
防災行政無線、ラジオ、テレビ等から気象情報、土砂災害警戒情報等を収集する。	
収集した情報は、有線電話、携帯電話等により、必要な住民に伝える。	
土砂災害の危険性が予測される場合は、災害時要援護者に早期の自主避難を呼びかける。	
安否確認・避難支援班による災害時要援護者の避難誘導が実施できるよう体制を整える（人員確保）。	
<b>災害時要援護者の避難誘導</b>	確認欄
土砂災害の危険性が予測される場合で、災害時要援護者等が自ら避難できない場合は、安否確認・避難支援班による避難誘導を実施する。	
<b>資機材等の確保</b>	確認欄
災害発生時に備えて、防災資機材等の確保をする。	

【災害発生直後】

防コミ運営本部の立ち上げ	確認欄
あらかじめ決められた役員は二宮地域福祉センター（中央消防団第四分団詰所）に集合し、防コミ運営本部を立ち上げる。	
本部に駆けつけた役員の中から、統括防災リーダーを決定する。	
本部に地域の地図や名簿、被害情報集計表、指示書、メンバーで情報を共有するためのホワイトボードや模造紙等を準備する。	
統括防災リーダーは被害状況等に応じ、集まってきたメンバーを配置して活動班の編成を行い、具体的指示を出す。	
情報収集・伝達	確認欄
情報伝達の手段や順番（誰が誰にどのように伝えるのか）を、連絡網や集まってきたメンバーを考慮して決定する。	
防災行政無線、ラジオ、テレビ等から気象情報、土砂災害警戒情報等を収集する。	
本部に立ち寄った地域住民から得られた各地区の被害状況、安否不明者や避難支援が必要な人の情報等を収集・整理する。	
気象情報や地域内の被害状況、本部の指示内容等を他の活動班に伝達する。	
被害情報、活動情報等を区役所や消防署、警察署等に伝達する。	
安否確認	確認欄
避難者等からの安否確認情報を収集・整理する。	
事前に用意している名簿や、収集した安否確認情報をもとに、民生委員等と協力して不明者の安否確認を行う。	
自力での避難が困難な人の避難支援	確認欄
自力での避難が困難な人（災害時要援護者や障がい者、お年寄り、妊婦、負傷者等）の避難誘導が実施できるよう人員の割り振りを行う。	
自宅の損傷の状況等により、自力での避難が困難な人の避難支援を行う。	
状況により自宅避難となった場合も、その情報を本部に集約する。	



救出・救護活動	確認欄
避難者等からの被害情報等に基づき、救出活動が実施できるよう人員の割り振りを行う。	
二次災害に注意しながら、防災資機材等を活用し、倒壊家屋等からの救出活動を行う。	
負傷者に止血等の応急手当を実施し、必要であれば医療機関等へ搬送する。	

避難所のたちあげ	確認欄
学校関係者や区役所職員と協力して勤労会館や中央小学校に避難所を開設する。	
避難者を受け入れ、避難者名簿を作成・整理する。	
必要に応じて、毛布等の資源を分配・管理する。	
必要に応じて、自宅待機者や避難が困難な人へ物資を運搬する。	

※避難所は二宮地域外（勤労会館は小野柄地域、中央小学校は若菜地域）に存在するため、その運営体制については主体となる他地域の自主防災組織との協議・連携を要する。

【災害発生から数時間～3日(72時間)くらい】

役割分担の見直し	確認欄
防災コミ役員の集結状況や、災害の状況に応じて、役割を見直す。	
避難所等との情報交換	確認欄
勤労会館及び中央小学校に避難した住民と連絡を取り合い、情報や名簿を整理する。	
生活情報の収集・周知	確認欄
生活情報の収集および住民への周知を行う。	
防火・防犯パトロールの実施	確認欄
パトロール班を結成し、二次災害に注意しながら、交代で地域内のパトロールを行う。	

避難所の運営	確認欄
学校関係者、区役所職員や災害ボランティアなどと協力して、避難所の運営にあたる。	
災害時要援護者に配慮する。 ※特に、知的や精神、発達障がい者のうち、集団生活に対応することが困難な人、透析患者やオストメイト（人工肛門など）などの内部障がい者について、特別な配慮が必要であることを他の避難者に理解してもらうことが重要。	
避難者名簿の記載事項に基づき、持病がある人等に適切な処置が施せるよう聞き取り調査を行う。	
福祉避難所を必要とする人については、避難所を巡回する市の保健師につなぐ。	
女性や子育て家庭などに配慮する。	
一緒に連れて避難してきたペットなどに配慮する。	

※避難所は二宮地域外（勤労会館は小野柄地域、中央小学校は若菜地域）に存在するため、その運営体制については主体となる他地域の自主防災組織との協議・連携を要する。

# 避難者名簿

二宮地域福祉センター

作成日： 年 月 日

	フリガナ 氏名	住所	性別	年齢	要 援 護	備考 避難先や持病の有無 その他配慮事項等
1						
2						
3						
4						
5						
6						
7						
8						
9						
10						
11						
12						
13						
14						
15						
16						
17						
18						
19						
20						

# 情報収集・伝達

1. ラジオ、テレビ、防災行政無線等で地震情報等の収集を行う。
2. 地域内の災害情報を把握する。

## 情報収集・伝達手順

### 1. 情報収集

収集した情報はホワイトボード等に時系列で記載する。

#### ①ラジオ等での情報収集

通信手段が確保されている場合は、ラジオ、テレビ、防災行政無線のほか、電話等も活用する。

#### ②行政からの情報収集

各種機関へ直接連絡を取り、必要な情報を収集する。また、定期的に区役所等に向くなどして、公開されている情報を収集する。

#### ③避難者等からの情報収集

地区内の被害状況や避難状況等の情報を収集する。

### 2. 情報伝達

情報を伝える手段として、ハンドマイク、広報掲示板、回覧板も効果的に活用する。

# 安否確認

1. 安否確認情報を収集する。
2. 安否不明者の確認を行う。
  - ①事前に用意している災害時の要援護者名簿に基づき安否確認を行う。
  - ②事前に用意していない場合は、民生・児童委員等と協力し安否確認を行う。

## 訪問先での確認手段

1. 外観の確認  
建物に甚大な被害がないかを確認する。
2. 声かけ・呼びかけ確認  
門の外側で大きな声で呼びかけ、安否を確認する。
3. ドアをノックする  
応答がないときは、呼びかけと一緒にドアをノックする。
4. 庭、勝手口等の確認  
状況が把握できないときは、庭、勝手口などを確認する。

# 災害時要援護者の避難支援

1. 自宅の損傷の状況等により、避難所に避難する必要のある災害時要援護者の避難支援を行う。
2. 本部に集まった人で、支援者の割り振りを行う。

※地域福祉センターに保管している災害時要援護者名簿に基づき、民生委員と連携して、避難支援を行う。

## 避難支援のポイント

1. 一人暮らし高齢者  
迅速な情報伝達と避難誘導、安否確認および状況把握が必要。
2. 寝たきりの要介護高齢者  
避難時は車いす、担架、ストレッチャー等の補助器具が必要なことがある。
3. 認知症の人  
安否確認、状況把握、避難誘導の援助が必要。
4. 視覚障がい者  
音声による情報伝達や状況説明、避難誘導等の援助が必要。
5. 聴覚障がい者  
補聴器の使用や、手話、文字、絵図等を活用した情報伝達および状況説明が必要。
6. 言語障がい者  
手話、筆談等によって状況を把握することが必要。
7. 在宅人工呼吸器使用者  
避難所での電源確保が必要。

# 救出・救護活動

1. 防災資機材（ジャッキ、のこぎり、バール等）を活用し、協力して救出活動を行う。
2. 救護（応急手当）を実施する。
3. 本部に集まった人で、救出・救護活動人員の割り振りを  
行う。

## 救出・救護手順

### 1. 被害の実態把握

- ①倒壊建物に取り残されている人がどのような状態か（けがの程度も含めて）確認する。
- ②建物の倒壊状況および内部に進入するスペースがあるかを確認する。
- ③二次災害が発生する危険要因がないか確認する。

### 2. 二次災害の防止

- ①木片、トタン、ガラス等の軽量物を除去する。
- ②柱、梁等の大きな物の周辺物を除去するときは、これらの大きな物がずれたり倒壊しないようにロープ等で支持、固定する。
- ③火災の発生に備え、消火器や水バケツを用意する。ガスの元栓や電気のブレーカーは早期に閉止や遮断を行う。

### 3. 要救助者の救出

- ①要救助者の近くまで掘り進んだ後は資機材を使わずに手作業にする。
- ②要救助者を無理に引き出そうとしない。

### 4. 応急手当

出血しているときは清潔なガーゼ等で傷口を圧迫止血する。

# 消火活動

1. 研修を受けた人が中心となり、耐震性防火水槽の小型動力ポンプ等を活用し、初期消火を行う。
2. 出火場所を確認し、消火活動人員を割り振る。

## 消火活動手順

1. 消火用水の選定
  - ①火元に近い消火用水を選定し、強風時には風上側を使うなど風向きに注意する。
  - ②河川使用時はストレーナーを水の流れに向けて投入し、浮かばないようにする。
  - ③ポンプから水面までの高低差は7m以内を目安とする。
2. ホースの延長要領
  - ①道路、建物の曲がり角では大きく曲げて、折れやねじれ、引きずりを避ける。
  - ②ホースの結合は漏水しないように確実に行う。
3. 送水の時期
  - ①ホースの延長状況や筒先担当の「放水始め」の合図があってから送水する。
  - ②放水口コックを開けるときは筒先の反動力を考え徐々に行う。

## 小型動力ポンプの使い方

- ①燃料コックを開く。
- ②スロットルダイヤルを「給水・始動」の位置に合わせる。
- ③リコイルスターターハンドルを強く引張り、エンジンを始動させる。
- ④給水レバーを引き上げ、水を吸い上げる。
- ⑤放水口コックをゆっくり開きながら全開にし、放水を行う。

